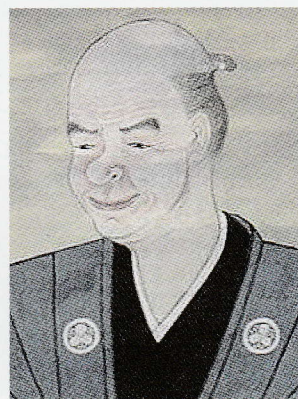


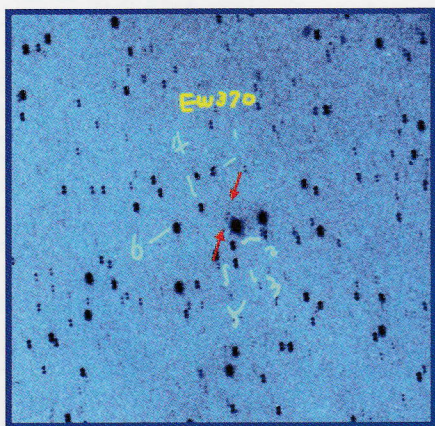
近代地理学の祖 長久保赤水（1717-1801）について

長久保赤水是江戸時代の儒学者です。高萩市赤浜の農家の生まれですが、学才が認められて第六代水戸藩主治保の侍講（教師）となり、江戸に勤務するかたわら、地理学・天文学・農政学等多岐の分野にわたる研究成果を残しました。特に地理学分野の評価は高く、代表作である「改正日本輿地路程全図」をはじめとする地図類は、赤水の没後も版を重ね、国内外の多くの人に愛用されました。



長久保赤水自画像(部分)

2017年4月22日に小惑星「Nagakubo」が誕生しました



小惑星「Nagakubo」発見時の写真(渡辺和郎氏撮影)

この小惑星は北海道在住のアマチュア天文家、円館金さんと渡辺和郎さんが1992年に発見したものです。茨城県北地区を中心に活動している天文グループ「すばる天文同好会」の川口和彦さんが、天文学者でもあった赤水の名を小惑星につけたいと考え、元日立市天気相談所長の富岡啓行さんを通して渡辺和郎さんへ依頼。渡辺さんが国際天文学連盟へ申請し、小惑星「Nagakubo」が誕生しました。

「Nagakubo」は直径約10km、火星と木星の間にあつて、太陽のまわりを4.51年かけて一周しています。

2017年1月26日、長久保赤水関係資料が茨城県文化財に指定されました

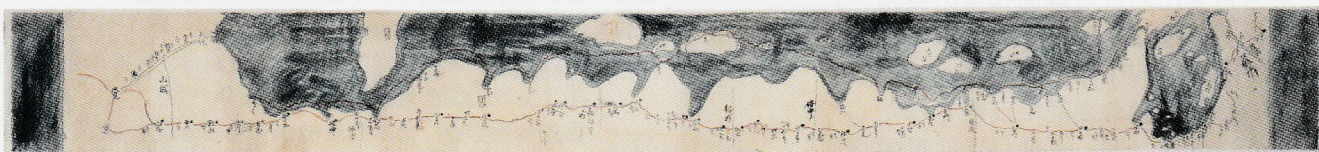
赤水の故郷である本市には、地図の編集資料、書簡など数多くの資料が遺されています。

これら資料のうち693点は、赤水の地図製作過程ならびに天文学の解明、及び知識人との交流の様子を伝えるとともに、水戸藩領の農村と農政の解明に資する学術的価値がきわめて高い資料群であると評価され、2017年1月26日、歴史資料として茨城県から文化財に指定されました。

10月～11月に高萩市歴史民俗資料館において開催される特別展では、県指定を受けた資料を中心とし、赤水の業績を俯瞰できる展示を行います。



唐土歴代州郡沿革地図草稿(三国鼎峙図)



頼弥太郎子息十二歳にて図之(頼春水の子頼山陽が12歳時に作製した地図)

【お問合せ先】 高萩市教育委員会生涯学習課 Tel 0293-23-1132

